

労働運動はまちづくりから



社会参加

電機連合山形地方協議会
電機山形改革フォーラム

安達 隆司

私事になるが、上の娘が自分の部屋を欲しがってきた。今は妹と同じ部屋で勉強しているが、妹もだんだん生意気になりつつとうしなくなってきたらしい。思案の末、私が使ってきた部屋を譲ることにした。親から与えられた部屋を二十六年ぶりに手放す訳であるが、娘に渡す前に、私の道具を処分しなければならぬ。これが思いもかけず大変な作業となってしまう、年末年始休暇に着手したが、いまだに終了していない。分別用のごみ袋を四種類買いそろえたが、どの袋に入れたらよいか皆目見当がつかない物がやたらに多くあるのだ。市から配られた分別のパンフレットを見てわからず、思い余って山形市役所に電話をし問い合わせたが、次々とわからないものが出て、ついには電話をするのがおっくうになり今に至っている。正直、ゴミの分別がこれほど難しいものとは思ってもみなかった。適当に分別して出せばよいわけだが、私の事務所がISO14000実施事業所の中にあるため、気分的に出来ないのである。

さて、前置きが長くなってしまったが、この種の誌に労働組合関係の話が載るのは珍しいことではないかと思う。せつかくいたいたい機会なので少し話をさせてもらいたい。

電機連合山形地方協議会とは産業別労働組合「電機連合」の山形県におけるローカル組織である。そして改革フォーラムとは、その組合員有志を会員とした「参加型の政治活動を基本に中央・地域で私たちの生活にかかわる政策を考え、その実現に向けて行動する」を目的とした組織である。

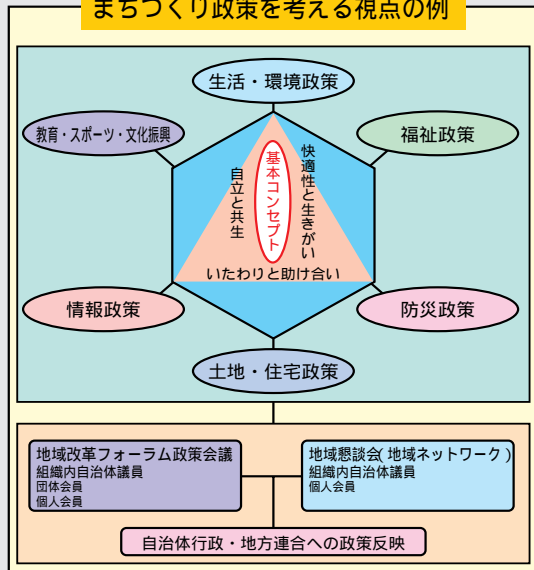
労働組合は昔から政治闘争と称しさまざまな形で政策・制度要求を行ってきたが、その多くは集会・デモなどに代表される上部組織の指令に基づく動員型の行動だった。さらには、組織内議員・推薦議員の必勝に向けた動員型選挙闘争であった。しかし、現在の混沌とした社会情勢の中で、いくら労働組合と言えども、組合員の政治に対する無関心層の増大には歯止めがかからず、選挙には行かない、そして候補者は落選する事態が発生するよう

になった。そこで、この政治・政策制度に対する無関心を何とか改善しようとしたのが、改革フォーラム発足のきっかけである。

そして、このフォーラム活動がこれまでの労働組合の政治活動と大きく違うのは「動員型ではなく参加型である」こと、そして「会員一人ひとりが自立した市民として、地域のまちづくりに参画していく」を中心に据えた点である。「えっ、民間の労働組合がまちづくりに参加するのか」と驚かれるかもしれないが、これまで構内運動を中心に活動してきた企業内労働組合が、連合の政治運動とは別の形で、街に飛び出したのである。

その理由は簡単である。一つは、私たちは会社においては社員であり組合員でもあるが、家に帰ればそのまちの住民なのだ。もちろん、給料が生活の糧であり労働組合として賃金等の労働条件交渉は非常に重要なわけだが、一方、私たち自身が生活を営む地域の生活環境が悪ければ総合的な生活改善は図れない。例えば、春闘で所定労働時間を一日十五

まちづくり政策を考える視点の例



分短縮したとしても、人口増加に対応した道路の改善が進まなければ大渋滞により通勤時間が増えてしまうし、必死な交渉の結果千五百円のベースアップを勝ち取っても地域の公共料金が値上がりすればそれまでである。病院が混み合えば、半日有給ですむところが一日かかってしまう。これまで企業内労働組合は、経営側にさまざまな労働条件向上の要求を行ってきた。七年前の私が組合委員長時代の交渉において、ある役員から「会社も大変なんだから、君たちも外に出て出来ることやれ」と言われたことがあった。つまり、構内にとどまっていなくて、地域社会に参加し自らの手で自分たちの住んでいるまちの生活環境を向上させていこうと言うのである。

二つは、政治に対する無関心を払拭するために、混沌とした訳の分からない中央政界の動向を見るのではなく、自分たちの身近な小さな問題から考えてみようと言うことである。もう一度、歩いて住んでいる街をよく見

てほしい。無駄な箱物公共施設はないか、障害者に対する配慮はなされているか、ダイオキシンを排出している小型焼却炉はないか、考えさせられることがきつとある。ゴミの正確な分別や収集場所へ持つていくのを奥さん任せにせず自分で試してみるとかなり大変なはずだ。このように、身近な問題を考えていくことがひいては国政レベルの課題に関心を持つことになるのではないかと思う。

ここで注意をしなければならないことがある。私たちは労働組合の運動の一つとして、そして今後の運動のあり方の一つとして改革フォーラムを組織し活動しているが、労働組合的発想で物事を見てしまう危険性がどうしてもつきまといてしまう。そこで大切なのが、私たちの周りに大勢いる地域社会を良くしようと言う思いで活動している各種市民団体とのコミュニケーションではないかと考える。

ボランテア団体、NPO法人、地方議会の議員、グラウンドワークを実践されている皆さんなど幅広い方々との交流が必要になってくる。物事には多面性があり、しっかりと見極めなければならないのだ。

以上、改革フォーラムの意義そして活動の方向を私なりに述べさせてもらったが、実際の活動となると決して順調ではない。まず、会員にそれだけの意識がまだ芽生えておらず、多くの会員がいまだに面倒くさいと思っ

ている。次に、運営するスタッフがまとまらない。フォーラムは私と各組合の委員長そして四名の組織内議員で運営をしているが、忙しくてスケジュールが合わない、そして最大の問題はリストラへの対応が優先してしまい改革フォーラムどころではないことである。

なんとも頭の痛い話であるが、これが現実である。

時代はまもなく二十一世紀を迎えようとしている。地方分権が推進され地方自治が本格的に動き出すはずである。しかし、国および地方自治体の財政を見ると極めて厳しい運営を強いられ続けている。経済情勢が低迷し税収が伸びない中で、地域社会をより良くして行くために私たちは声を出して参加型の地域づくりを強力に進めなければならないと思う。

電機連合本部では今、新時代の社会はどうあるべきか、二十一世紀型の労働組合運動をどうすべきか、本格的な論議を開始した。基本理念は美しい地球幸せな暮らし、キーワードは安心・安定した社会と生活「セーフティネットワーク」である。この中で改革フォーラムが果たす役割は非常に大きくなる。

休日の出張が多く帰日も遅いため「母子家庭だ」と言われている。娘二人が嫁に行った後、妻と二人で幸せな暮らしが出来よう、たまには早起きしてごみ出しを行うように心がけたいと思うこのころである。

安達 隆司

電機連合山形地方協議会事務局長（電機山形改革フォーラムの事務局長兼務）、1956年山形市生まれ。山形市七浦201-2。東北バイオニア労働組合中央執行委員長。労災防止指導員。山形県雇用安定審議会委員。電機連合 正式名称を「全日本電機・電子・情報関連産業労働組合連合会」と言い、東京都港区三田に本部を置く。日本の主要な大手電機メーカーの労働組合をはじめ中小組合を合わせ計240組合・組織人数約80万名が集う国内最大の民間産業別労働組合連合組織である。全国各地に各組合支部間の相互交流や支援共同闘争が行えるように36の地域協議会を設置している。山形地方協議会は県内の主要電機メーカーの本部や大手組合の支部18組合で構成され、組織人数は8,700名で県内最大の民間産業別労働組合協議会組織である。事務局を東北バイオニア労働組合内に置く。